

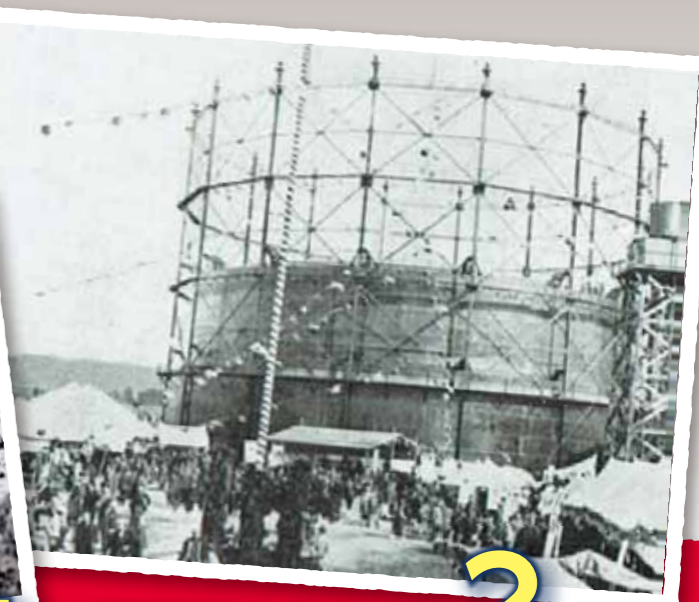
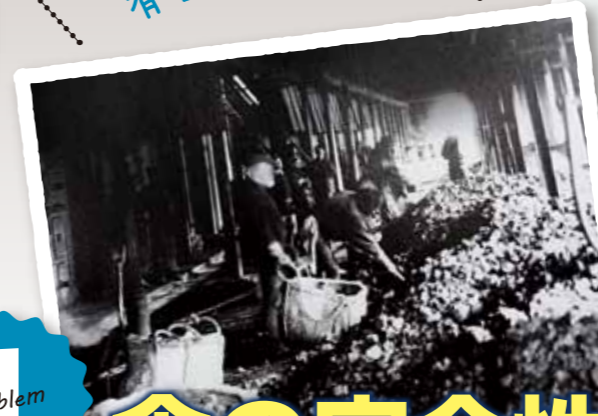
京都の市場は  
大丈夫?

# ガス工場跡地

不安



コークスができる過程には  
有害物質が発生!



1 Problem

## 食の安全性に問題はないか?

京都市の市場は今後10年以上を  
かけ再整備を実施していく  
が、土壌汚染が疑われることにつ  
いて、「市として過去の所有者や土  
地利用状況をできるだけ遡って調  
べる土地履歴調査及び空気汚染調  
査を直ちに行う」よう議会で求めた。し

かし市は、市場の青果棟部分の土  
地を大阪ガスから買ったことは認め  
たものの、「あくまで市場の安全性  
を主張し、コンクリートかアスファ  
ルトで覆っているためいずれも必要  
性はない」と主張する。しかし、近隣  
の朱雀工場跡地の調査では基準値

76倍のベンゼンや100倍のシアン  
化合物検出されており、昭和50年  
代に建てられた経年劣化が進む青  
果棟も揮発のリスクが拭えない。ガ  
ス工場の跡地と指摘される地で土  
壌汚染調査を実施したことがないま  
ま、安全と言い切れるだろうか。

## 京都市場の地下に眠るガス工場の足跡

**東** 京都の豊洲新市場の問題が報道さ  
れる中、「京都の市場も昔はガス工  
場の跡だが大丈夫だろうか?安全  
性を確かめて欲しい」との声が市民から寄せら  
れた。市場近くのリサーチパーク近隣には今  
もガスタンクがあり以前はガス工場跡地だ  
ったと聞かすが、中央市場の件は聞いたことが  
ない。まさかとは思いつつ、食の根幹を司る市場  
の安全性を確かめるべく調査を開始した。

何度も法務局へ足を運び調査を進めると、**京  
都の中央卸売市場青果棟が石炭ガス工場の  
跡地である実態**が見えてきた。京都市が昭和  
46年に敷地を購入するまでの約60年間にわ  
たり、大阪ガスと京都ガスが所有しており、過  
去の航空写真や地図、及び工場で導入されて  
いた設備、当時の時代背景などから、**石炭によ  
る都市ガスの製造が行なわれた可能性が極  
めて高いことが分かった。**



(1945~1950年 国土地理院 地理院地図より)



(2007年 国土地理院 地理院地図より)

写真の通り、国土地理院による昭和20年ごろの航空写真には京都ガスが所有していた土地にガスタンクが映っている。右側が島原工場で、後の中央卸売市場(青果棟部分)。左が朱雀工場であり、後の京都リサーチパーク。

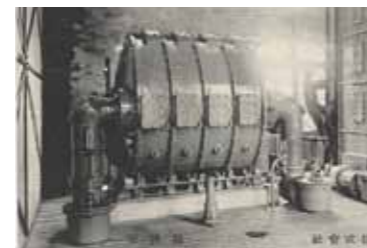
そうなれば、豊洲と全く同じ土壌汚染への懸  
念が生じる。大阪ガスが平成16年に朱雀工  
場跡地である京都リサーチパークの土壌汚  
染調査を独自に実施しており、その結果では  
**土壌ガスから基準値の最大76倍となるベ**

**ンゼンが検出されていたことが分かった。**  
残念ながら市場青果棟部分の島原工場跡  
地の土壌汚染調査を実施した経過は見当  
たらなかった。

**島** 原・朱雀工場で導入された水平レ  
トルトは、初期の都市ガスの製造  
設備であり、耐火煉瓦で造られた  
円筒型またはカマボコ型の炉を水平に配置

し、石炭を投入して周囲から1000~1200度  
前後で加熱して石炭ガスを得るもので、最後  
にコークスが残る。豊洲と同じく、石炭などを  
原料として**都市ガスを製造する工程には、**

**ベンゼン、シアン化合物などが発生し、石炭  
中に含まれる水銀、砒素、鉛、クロムなども副  
生され、工場敷地の土  
壌や地下水を汚染す  
る可能性がある。**



(出典)大阪ガス50年史より作成。

2 Problem

## 膨らむ事業者負担。後から汚染が発覚すればさらに膨張も。

**不** 安が残るのは安全性だけでな  
い。再整備に伴う費用と、市場で  
営業する仲卸業者などの事業者負  
担への影響だ。中央市場は今後数年  
かけて再整備が計画され、すでに一  
部工事が始まっている。整備予算は  
600億円で、その内訳は国庫支出金  
より140億円、京都市が110億円、事  
業者が350億円となっている。**整備後  
の事業者の使用料は現在の1.5倍か  
ら2倍になるとされている。**市は市場  
の余剰地を売却し事業者負担を「で  
きるだけ2倍よりもできるだけ低いと  
ころに持っていき」としている。しかし、  
その余剰地こそがガス工場跡地で土  
壌汚染の不安が残る青果棟部分な  
のだ。この余剰地の売却には85億円

を見込んでいるが、**土壌汚染が発覚  
すれば使用料の値上げ幅軽減につ  
なげる計画も一転する。**

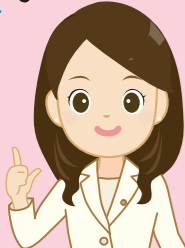
市内で土壌汚染が出た南部クリー  
ンセンターでは、対策費に23億円の  
追加資金がかかり、その分整備に時  
間も要した。土壌汚染にはとにかく時  
間と手間とお金がかかる。ただし、早  
期に汚染を把握出来れば「原位置浄  
化」という時間はかかるが化学物質や  
バイオなどで浄化する手法も考えら  
れ、土を掘削して持ち出したり、盛土を  
行うよりも大幅に低コストとの情報も  
ある。再整備を円滑に進め、事業者の  
使用料の値上げ拡大を防ぐためにも、  
まずは青果棟の現状を把握すること  
が肝要である。

国庫支出金	140億円
京都市	110億円
事業者	350億円

現在の1.5倍から  
**2倍に!**



まとめ



**消費者と市場関係者の理解を  
得るために最善の努力を**

京都市の市場の再整備は始まっている。とにかく、真摯に過去の土地の歴史を受け止めて、一日も早く調査をする必要がある。未来にかかるリスクをなくしていくことが重要である。

市は安全性を示す客観的な指標を出そうとはせず、それより風評被害が生じる懸念を強調する。しかし、環境基準を超えた汚染の検出を問題視することを「風評被害だ」とする見解は、市民

への食の安全性確保が後回しになってはいないか。食の安全性や信頼が確保できるのか、消費者と市場関係者の理解が得られるのかが最も向き合うべき課題である。

市民のため、市場関係者のため、今後市場で働いていく人のため、真摯に向き合うべきです。市民の皆様からのご意見、ご要望を是非お寄せ下さい。